

「神がすべてを益とされる」Ⅰ

ローマ8：28

堀田修一

23・8・27

序：ローマ8章全体の主題は、「主を信じる私たちに救いの確信を与える」ことです。本日のみことばは、聖書全体の中で最も慰めに満ちたみことば、人の思いを越えた高みにある教理、優れた並々ならない究極の教理です。このみことばを味わえるほど大きな特権はない。この聖書の教えは、私たちの徳を高めるためと私たちへの深い慰めのために与えられている。このみことばは、あまりにも深く素晴らしいので、一回の説教では、語り尽くせません。そのために、同じ主題でⅠ、Ⅱ、Ⅲと数週間に渡り説き明かします。私自身もみことばを教えられ続け、恵みを受け続けながら。

Ⅰ このみ言葉の恵みを受ける人とは＝「神を愛する人たち（まず愛してくださる神の愛を知り信じ受け入れ、感謝し、神の愛で神を愛する人たち）、神のご計画にしたがって召された人たち（神の救いへの招きに従い、主イエスを救い主、主、神と信じた人たち）」。

この世に、自分の力で主を信じた人はいない。主を信じる信仰さえ、助け手、とりなし手である聖霊なる神が与えてくださる。感謝したい。もし、まだ、主イエスを自分の救い主、主、神と信じておられない方があれば、素晴らしい救い主イエス様を信じ、心に迎えていただきたい。そうすれば、あなたの人生に起こるすべてを神は益（すべて自分の思い通りになる益ではなく、私たちの人格が真に成長する益）としてくださる歩みが始まります。

Ⅱ 神がすべてを働かせておられるお方。神こそあらゆる所で働いておられるお方。神は、天と地、宇宙のすべてを造られた方。「はじめに神が天と地を造られた」創世記1：1。「この世界とそこにあるすべてのものをお造りになった神は、天地の主ですから、手で造られた宮にお住みにはなりません。…神ご自身がすべての人に、いのちと息と万物を与えておられるのですから。神は一人の人（アダム）からあらゆる民を造り出して、地の前面に住まわせ、それぞれに決められた時代と、住まいの境をお定めになりました（神が定められた境を越え他の人や他の国を侵略するのは罪）。それは、神を求めさせるためです。確かに神は私たち一人ひとりから遠く離れてはおられません。『私たちは神の中に生き、動き、存在している』のです」使徒17：25-28。これまでも、これから、万物を支配し、神こそ万物を制しているお方。宇宙は自動的に動いているのではなく、なおも主イエス・キリストを通して神に制されている。「万物は御子にあって成り立っています」（コロサイ1：17）。神は、すべてのことを支配し、それがご自分の民の益となるようになされる。「すべてのこと」には、文字通りすべてが含まれる。私たちに不利になると思われること、心をくじき、失意に落ちいらせることも含む。不都合と思わせることも。「私たちは、…患難さえも喜んでいます。それは、患難が忍耐を生み出し、忍耐が練られた品性を生み出し、錬られた品性が希望を生み出すと知っているからです。この希望は失望に終わることがありません。なぜなら、私たちに与えられた聖霊によって、神の愛が私たちに注がれているからです」ローマ5：3-5。良いことも、自分にとり良くないことも、試練も、苦難も、病も、失望も、失敗さえも、神はすべてのことを私たちの益（神に立ち返り、

神に近づく) とされる。これは驚くべきことですが真実です。私の人生でも！

Ⅲ 試練や苦難や失敗は、それ自体では良いものではない。しかし、神がすべてを益とされるという意味は、私たちの人生でマイナスに思えることでさえ、それらを神は用いられ、神によって上から支配され、神がそれらの中に働かれることによって、私たちの益になるようにされるという恵みである。「あなたがたは私に悪を謀りましたが、神はそれを、良いことの計らいとしてくださいました」創世記50：20。

試練、迫害、病、色々な弱さ、落胆させる物事が、神の御手の中で共に働いて私たちの益になることを見ていきたい。

1. 試練や困難は、私たちの心を神に向けさせ、神から離れている心を目覚めさせる。私たちの心を神に向けさせ、神に立ち返らせる試練、困難、失敗は、常に益（神に近づく）となる。私たちにとって、危険なのは、物事が順調に見える時である。※人生も試合も油断は大敵。私たちは、様々な問題、困難がある時、健全な意味で、自分の仕事、人生に注意を払う。真剣に神に祈り頼る。逆に、順調な時が続くと、どうしても油断し気持ちが悪くなる。「結構、自分だけでやれるぞ！」と高ぶり、神と神がそばに置かれた多くの人の支えで何かができたことを忘れてしまう。「順境の日には幸いを味わい（神のおかげと感謝し）、逆境の日にはよく考えよ（心を静め、神は何を教えようとされているか考えよ）。これもあれも、神のなさること」伝道者の書7：14。

2. 私たちの人生には、うまく行く時もあれば、うまく行かない時もある。うまく行かなくなることを神が許されるのは、神の配慮、愛である。「雀の一羽でさえ、あなたがたの父の許しなしに地に落ちることはありません」マタイ10：29。試練や困難がやって来る時、そのおかげで、はっと、心の目が覚められる。それは常に私たちにとって常に良いこと、益である。なぜなら、そのために考えさせられるから。何事であれ、私たちを深く考えさせることは、常に私たちにとって益である。人が陥る最悪の状況は、何も考えず、今の状況を当たり前のように思い込み、人生を惰性的に進むことです。人生の道筋が、時として乱されるのは、決してマイナスのことばかりではない。そこで、貴重なことを学ぶことになる。

「苦しみにあったことは 私にとって幸せでした（益となりました）。それにより、私はあなたのおきて（みことば、みこころ）を学びました」詩篇119：67

3. 様々な試練がもたらす効果、益は、私たちに衝撃を与え、私たちの心の目を覚まし、深く考えさせることである。その時、すでに私たちは、試練が始まるよりも良い状態にある。その時の私たちは、進んで注意を払い、神に近づき祈りつつ歩む。単にその問題にばかりではなく、自分自身と自分の状態に注意を払い神に頼り祈る者に変えられる。「私たちは、非常に激しい、耐えられないほどの圧迫を受け、生きる望みさえ失うほどでした。実際、私たちは死刑の宣告を受けた思いでした。それは、私たちが自分自身に頼らず、死者をよみがえらせてくださる神に頼る者となるためだったのです」Ⅱコリント1：8，9。

4. 最後に、有名な主の弟子ペテロの失敗を神が用いてペテロを謙遜な弟子に変え、それを益とされ彼を見捨てず豊かに神のために用いられた恵みを見、失敗する私たちも神は見捨てない励ましを受けたい！

高慢なペテロ「ペテロがイエスに答えた。『たとえ皆があなたにつまずいても、私は決してつまずきません。』イエスは彼に言われた。『まことに、あなたに言います。あなたは今夜、鶏が鳴く前に三度わたしを知らないと言います』ペテロは言った。「たとえ、あなたと一緒に死ななければならないとしても、あなたを知らないなどとは決して申しません」マタイ26：33－35。その後、イエス様が十字架につけられるために人々に捕らえられた時、ペテロは恐れ、イエス様のことを「そんな人は知らない」と言った（三度目）。すると、すぐに鶏が鳴いた。ペテロは、「鶏が鳴く前に、あなたは三度わたしを知らないと言います」と言われたイエスのことばを思い出した。そして、外に出て行って激しく泣いた（悔い改めの涙。高慢が砕かれる益）。その後、イエス様は、ペテロの失敗を許し、主に立ち返った彼を、もう一度、使徒達の指導者として用いられたのです。神はペテロの失敗を益（高慢から謙遜な人へ）とされました。彼は言う「互いに謙遜を身につけなさい。『神は…へりくだった者には恵みを与えられる』」I ペテロ5：5